

番組審議会

第705回

2026年6月15日

■ 委員の出席

委員長	音	好	宏	
副委員長	江	澤	佐知子	
委員	川喜田	尚		田中東子
	谷本	歩実		洞口依子
	長嶋	有		二関辰郎
	目加田	説	子	

TBSテレビ	龍	宝	社長
	合	田	専務
	井	上	取締役
	三	城	コンテンツ戦略局長
	石	橋	コンテンツ制作局長
	井	上	バラエティ制作三部長
	野	村	プロデューサー
	藤	田	編成考査局長
	浜	崎	カスタマーサクセス室長
	加	来	番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「ニノなのに」

5月27日(水) 20:54～21:58放送

(2) その他

2. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】（「ニノなのに」）

2024年4月よりレギュラー放送開始。

「なのに」をキーワードに気になる物事の意外な一面を掘り下げる“ギャップ検証バラエティ”。番組タイトルは回文「にのなのに」。

二宮和也がMC“なのに”、ゲストがスタジオ進行を務める。

視聴者の生活や身の回りに転がる「気になる物事の新たな一面」を掘り下げるべく、敢えて「ギャップがあるもの」を掛け合わせて検証。

やってみたから分かった学びや新たな発見を届け、幅広い年齢層が楽しめる構造を目指す。

【委員の主な意見】

- 子どもの食い付きがめちゃくちゃ良くて、テレビを見て「子どもの反応を見て楽しむ」みたいな楽しみ方をした。私はこのターゲット層に嵌るので、やっぱり私みたいな人が見ているのかなと納得した。
- 挑戦したタレントさんが終始前向きだったのが良かったし、限られた金額の中であれこれ工夫して乗り切って、本人にも学びがあったようで、これは見ていて楽しかった。
- 過剰な演出ではなくて、その場で実際に起きていることをそのまま見せてくれている空気感、出演者の方々がよく口にする「ガチ」という言葉があるが、そんな空気が伝わってきて、こんな自然な反応が番組への信頼感にも繋がっているのかなと感じた。
- 前半は何もできなくて、計画性が無いと思いながらイライラ見ていたが、後半はいい感じに盛り上げていって、美味しそうな鍋を作ったり、バナナのケーキを焼いたり、すごく面白かった。テロップもすごくセンスが良くて、「折角の塩分が涙で流れてしまった」とかは、やはりバラエティは「テロップが命」と思いながら見ていた。

- ストーブと給湯器のところが物すごく気になった。テロップで一度「やけどに注意」と出ますが、大変危険なことをしているということが視聴者に伝わるような、注意喚起が不十分なんじゃないかなと思って、とてもハラハラしながら見ていた。むしろ笑えることではないという感じがしてしまった。
- 時々拝見している好きな番組。実験的な企画で世代間の様々なギャップとか通説を実証していて、とても楽しい番組だと思う。どの世代にも興味があるようなテーマを選ばれているのがいいなと思う。
- 「なのに」というのが本当にぼやけていて、何が「なのに」なのかな、「なのに」って何だろうな、と思って最初から見ていた。「タメになる学びや発見を届ける!」、「世代間ギャップを掛け合わせる!」というコンセプトも、ぼんやりとしていて、「なのに」と同じ「ぼんやり感」があった。
- それぞれでやっていることはY o u T u b e 的かもしれないけれども、別につまらないことをやっている訳でもないと思う。折角、「なのに」という言葉に思いたい「なのに」、こっちも思いたい、という感じがすごく希薄である
- 二宮さんが何かする番組なのかなと思って見始めたら、ほとんど出てこなかった。スタジオの時間が少なくて、もうちょっと二宮さんにご活躍いただいてもいいのかなと思った。
- メインMCという二宮さんの登場が極めて少ないと思ったが、自分としてもそんなに違和感も、嫌な感じも無かった。この番組を見ている人、何人かに聞いてみたら、登場時間が少ないことは全く気にならないと言っていた。
- 最近のバラエティの特徴として、突然始まって突然終わるとか、二つのコンテンツの切り替えがシームレス過ぎて、切り替わったことに気付くまでに10秒ぐらい置いていかれる。切り替えがシームレス過ぎて、もうちょっと余韻が欲しいと思う。見たものの余韻をもう少し持ったまま次に行けるといいなと

思った。

- 気になったのは、スタジオトークがVTRのテーマとやや結びついていない点。前半は後藤さんが視聴者の感じていることを代弁されていたので、見ながら一緒に楽しめているという気持ちだったが、後半はただVTRを見せられているような間延びした印象も受けた。
- 「ギャップを検証して楽しむ」というコンセプトは本当に面白い可能性を持っていると思っているので、その可能性には期待しながら拝見した。

【局からの回答】

- この番組は、ほぼ毎回違う企画を試させていただいて、視聴者の方々の意見を番組に反映できたらと思っている。「なのに」という言葉が効果的なものもあれば、今回の放送回のように、「ギャップ検証」、「世代間ギャップ」を意識し過ぎた余り、そもそもの番組の本質を受け取りにくかった部分もあるのかと思っている。今後、「なのに」という番組が掲げる核の部分をどう番組作りに落とし込んでいけばいいのか、引き続き議論してより良い放送にできたらと思っている。
- 過去に二宮さんを主とした、実際に稼働していただいた企画も多々ある中で、この放送回は出演割合が3分の1程度の非常に少ない面積だったということを受け止めつつ、反省もしている。二宮さん出演のスタジオでの企画は鋭意、番組で作っているなので、近いうちに放送という形で表現できたらと思う。
- お子様と一緒に楽しくご覧いただいたという意見はすごく嬉しい。正に目指しているテレビの向こう側の景色として、話の種になるような夜9時を過ごしていただきたいという思いがあるので、非常に嬉しく思う。